


創造性に富む研究で、未来に貢献する若手研究者を顕彰する
第13回(2024年度)三島海雲学術賞の決定

公益財団法人 三島海雲記念財団(理事長 羽田 正、所在地 東京都渋谷区)は、厳正なる審査の結果、**第13回三島海雲学術賞の受賞者3名**を決定いたしましたので、お知らせいたします。

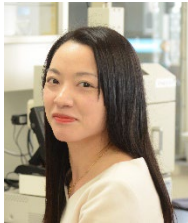
本賞は、自然科学及び人文科学分野において、傑出した研究業績を有する優れた**若手研究者(45歳未満)**を顕彰する賞です。

贈呈式は7月5日に東京會館(東京都千代田区)で開催し、受賞者には**賞状と副賞300万円**が贈られます。


【自然科学分野】(食の科学)

	つかさき まさゆき 塚崎 雅之 氏	35歳
	東京大学大学院 医学系研究科	特任准教授
	「食を支える口腔恒常性の維持・破綻機構の解明」 食を支える口腔の健康保持に着目し、歯の喪失の最大の原因である「歯周病の原因となる炎症性骨破壊」がどのようなメカニズムで起こるのか、あるいは「口腔がん患者で起こる顎の骨の喪失」がどのようにして進むのかというような課題の解明に取り組み、口腔システムの生理学や病理学の発展につながる成果を上げた。	

【自然科学分野】(食の科学)

	もんでん ゆき 門田 有希 氏	39歳
	岡山大学学術研究院 環境生命自然科学学域	准教授
	「食の安心・安全に貢献する作物の品種識別技術の開発」 次世代シーケンサーを活用した新たな遺伝解析手法を独自に開発するに留まらず、育成者権の保護に向けて実用的な品種識別技術を開発するなど、応用・実学的な面で大きな成果を上げた。また、この遺伝解析技術を用いた研究は優良品種育成の加速化にも繋がり、食の基盤となる農業の発展・競争力強化に貢献するものである。	

【人文科学分野】(アジアに関する人文社会科学)

	てい えいちょう 程 永超 氏	34歳
	東北大学 東北アジア研究センター	准教授
	「華夷変態の東アジア：近世日本・朝鮮・中国三国関係史の研究」 本書は、江戸時代の日朝関係史研究を土台にしながら、それが同時代の日本と中国(明・清)との関係や中朝関係とどのように連関するかを解明し、近世日本(対馬・江戸幕府)・朝鮮・中国の三国関係史の構築を目指したものである。近世東アジア三国関係史の研究領域において、その視覚を明示的に打ち出した意欲的な業績として高く評価される。	

(所属、年齢は2024年4月1日現在)

「カルピス」生みの親 三島海雲



1878年(明治11年)大阪府いまの箕面市の寺に生まれた三島海雲は西本願寺文学寮そして仏教大学に学び、24歳の時、青雲の志を抱いて中国大陸に渡ったのち、やがて仕事で訪れた内モンゴルの地で、遊牧民の活力源と言われる**酸乳(発酵乳)**に出会いました。

1915年(大正4年)に帰国後、自らの内モンゴルでの健康体験をもとに、乳酸菌を活用した食品の事業化に取り組み、試行錯誤を繰り返したのち1919年(大正8年)7月7日七夕の日に、**日本初の乳酸菌飲料「カルピス」**の発売に漕ぎつけます。「カル」はカルシウム、「ピス」はおいしさを表すサンスクリット語から自身が命名。水玉のデザインは天の川、天体の縮図を形どったものです。

「カルピス」を日本の代表する飲み物に育て、長く経営の第一線にあった三島海雲でしたが、幾多の試練を乗り越えることができたのは、「私欲を忘れ公益に資する」「国利民福」に代表される独自の世界観と信念だったとも言えます。1962年(昭和37年)84歳のときに、「私が今日あるのは、先輩、友人、知己、さらには国民大衆の方々の惜しみないご声援によるところのものであると思った。したがって私の得られた財物は、ひとり三島海雲の私するものはない。あげて社会にお返しすべきものである。そして、お返しする方法として、財団を設立することが望ましい。」と考え、全私財を投じ三島海雲記念財団を設立いたしました。

<本件に関するお問合せ先>

公益財団法人 三島海雲記念財団

唐木田 陽一、青山光夫

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-6-10 ジラッフアビル

Tel:03(5422)9898

URL:<https://www.mishima-kaiun.or.jp>